



クリニカルラダー評価表

氏名： _____
 評価日： _____年 _____月 _____日
 評価者： 1) _____ 2) _____

レベルⅢ

カテゴリ	評価項目	自己評価	他者評価	看護管理者評価	最終評価
器械出し看護実践	行動目標 □患者の個別性や状況の特性を踏まえて情報収集ができ、必要な情報を基本的情報に追加し準備ができる □患者から得た情報を手術チームと共有できる				
	情報収集 1. 既往、合併症、データなどから手術中に起こりうる状況を予測した情報収集ができる (N-Ⅲ-①) 2. 情報をもとに、手術に必要な医療器材の判断ができ、準備ができる 3. 緊急手術時に情報を収集し、優先順位の判断や迅速な準備・調整ができる (Co-Ⅲ-③) 4. 手術に必要な情報収集を行い、手術チームと共有できる (Co-Ⅲ-④)				
	行動目標 □患者の個別性を踏まえ、手術の進行状況の変化に応じて手術チームと協働することができる				
	実施 1. 患者の状態と術式の特徴に合わせて、医療器材の使用目的・製品の特徴を理解し、安全に器械出し看護ができる 2. 各診療科の術式や手術の進行を予測した器械出しができる 3. 各診療科の特殊性や医師の手法の特徴を熟知した器械出しができる 4. 患者の状況変化から術式変更がわかり、必要物品の依頼と対応ができる 5. 急変時、術野の状況を迅速に判断し、状況の変化に対応できる				
	行動目標 □自己の看護実践を科学的根拠に基づき、目標の達成状況を踏まえて評価できる				
	評価 1. 文献を活用し、自己の実践した看護について科学的根拠をもとに評価できる 2. 緊急手術・急変時の看護実践を科学的根拠に基づいて評価できる				
	行動目標 □患者の個別性や状況の特性を踏まえて情報収集ができ、必要な情報を基本的情報に追加できる				
	情報収集 1. 患者の状況の変化を予測し、看護問題を明確化するための情報収集ができる (N-Ⅲ-②) 2. 緊急手術時の患者の状態や緊急度に応じた情報収集ができる				
	行動目標 □患者の状態の変化に応じて、個別性を踏まえた看護問題を挙げ、患者と共有できる				
	アセスメント・問題の明確化 1. 情報をアセスメントし、個別性を踏まえた看護問題を挙げるができる (Co-Ⅲ-①) 2. 看護問題を明確化し、患者・手術チームと共有できる (Co-Ⅲ-②)				



クリニカルラダー評価表

氏名： _____
 評価日： _____年 _____月 _____日
 評価者： 1) _____ 2) _____

レベルⅢ

カテゴリー	評価項目	自己評価	他者評価	看護管理者評価	最終評価
外 回 り 看 護 実 践	行動目標	<input type="checkbox"/> 個別性を踏まえた看護計画を立案できる			
	計画立案	1. 個別的就実践可能な看護計画が立案できる 2. 手術の進行に沿った、看護計画の追加・修正ができる			
	行動目標	<input type="checkbox"/> 患者の個別性を踏まえ、手術の進行状況の変化に応じた看護実践ができる			
	実施	1. 患者の個別性を踏まえた看護実践ができる 2. 『手術看護業務基準』（日本手術看護学会）に準じて個別性を踏まえ、安全・安楽な看護を実践できる（Ca-Ⅲ-①） （『手術看護業務基準』の項目参照） ・ 深部静脈血栓（DVT） ・ アレルギー（ラテックスアレルギー） ・ 体温管理 ・ 手術体位 ・ 急変時の対応など 3. 急変時や術式変更など患者の状態の変化に応じた看護実践ができる（Ca-Ⅲ-②） 4. 手術チームで発生した問題に対し、解決に向けた取り組みができ、必要に応じて支援を求めることができる 5. 『看護記録に関する指針』（日本看護協会）に基づき、緊急手術時、急変時の看護記録の記載ができる 6. 緊急手術時、急変時の看護記録について、状況に応じた方法で申し送ることができる			
	行動目標	<input type="checkbox"/> 自己の看護実践を科学的根拠に基づき、目標の達成状況を踏まえて評価できる			
	評価	1. 文献を活用し、自己の実践した看護について、科学的根拠をもとに評価できる 2. 緊急手術・急変時の看護実践を科学的根拠に基づいて評価し、看護実践に活かすことができる			



クリニカルリーダー評価表

氏名： _____
 評価日： _____年 _____月 _____日
 評価者： 1) _____ 2) _____

レベルⅢ

カテゴリー		評価項目	自己評価	他者評価	看護管理者評価	最終評価
コミュニケーション	行動目標	<input type="checkbox"/> 患者の個別性や状況を踏まえたコミュニケーションをとることができる				
	コミュニケーション	1. 患者の個別性や状況を踏まえた説明を行い、患者が納得し、同意を得ることができる				
		2. 患者のおかれている状況や患者の思い、言動、理解度を確認したうえで、潜在するニーズや問題に気づき、状況に応じたコミュニケーション技術を駆使して関与することができる				
		3. 自分の対応が相手に与える影響を予測しながら行動できる				
マネジメント	行動目標	<input type="checkbox"/> 看護チームにおいて、リーダーシップを発揮できる				
	リーダーシップ	1. 手術部の目標に基づいた活動を推進できる				
		2. 看護チームの業務が円滑、かつ的確に実施できるようチームメンバーに指示することができる				
		3. 看護師の能力に応じた業務分担ができる				
		4. 緊急時・急変時において、人員配置や役割分担ができる				
		5. 手術部の委員会・係・会議などに主体的に参加し、役割の一端を担うことができる				
	6. 上司の支援を受け、周囲を巻き込みながら業務改善を進めることができる					
	行動目標	<input type="checkbox"/> 限られた時間の中で、費用対効果を考慮して、手術に必要な医療機器・診療材料を適切に選択し、業務を効率よく行うことができる				
	経済性	1. 費用対効果を考慮し、手術に使用する医療機器および診療材料を適切に選択し、準備、使用できる				
		2. 部署の物流管理システムを理解できる				
		3. 限られた時間で業務を効率よく行うことができる				
安全管理	行動目標	<input type="checkbox"/> 看護実践において医療事故防止対策を立てることができる				
	安全管理	1. 手術室内で生じやすい医療事故を危険予知でき、回避するための対策を立て、スタッフに指導ができる				
		2. WHO手術安全チェックリストに基づいて、自ら実践し、スタッフに指導ができる ①体内異物遺残				



クリニカルリーダー評価表

氏名： _____
 評価日： _____年 _____月 _____日
 評価者： 1) _____ 2) _____

レベルⅢ

カテゴリ	評価項目	自己評価	他者評価	看護管理者評価	最終評価
リスク マ ネ ジ メ ン ト	② 摘出された臓器・検体の取り扱いに関する事故 ③ 患者誤認 ④ 手術部位誤認 ⑤ 誤輸血・誤薬 ⑥ 転倒転落 ⑦ ドレーン・チューブ・ライン類のトラブル ⑧ 滅菌物の取り扱いに関する事故 ⑨ 医療機器の取り扱いに関する事故 ⑩ 手術部位感染（SSI）を理解し、予防策がとれる、他 3. 医療事故が起きた場合、原因を分析し、対策を立てることができる 4. 手術室における医療事故防止対策を管理者とともに関連職種に周知できる				
	行動目標 <input type="checkbox"/> 感染防止対策を立案し、手術チームに指導できる				
	感染管理 1. 手術室で生じやすい感染が分かり、対策を立て、スタッフに周知することができる（『手術看護業務基準』（日本手術看護学会）等に基づき） 2. 感染対策マニュアルを遵守した行動（標準予防策の実践）を手術チームに指導できる 3. 血液体液曝露が起きた場合、報告・対処行動がとれるよう指導できる 4. 洗浄および滅菌物の適正な取り扱いを指導できる				
	行動目標 <input type="checkbox"/> 災害防止に関する課題に気づき、提案できる。また災害発生時には、リーダーの補佐役割をとることができる				
	災害対策 1. 災害（災害訓練）時、リーダーの補佐役割をとることができる 2. 災害マニュアルに沿った行動ができるよう、関連職種へ指導ができる 3. 災害訓練の企画に参画できる 4. 防災における自部署の課題に気づき、管理者の指導のもと、災害マニュアルの改善ができる				
	行動目標 <input type="checkbox"/> 施設の情報管理システムについて、問題が発生したときに、リーダーの補佐を行い、協働し対応ができる				
	情報管理 1. 手術部門の情報管理システムについて、エラーが発生したとき（もしくは、システムエラー発生を想定した訓練時）にリーダーの補佐役を担うことができる				



クリニカルリーダー評価表

氏名： _____
 評価日： _____年 _____月 _____日
 評価者： 1) _____ 2) _____

レベルⅢ

カテゴリ	評価項目	自己評価	他者評価	看護管理者評価	最終評価	
	2. 災害などで、情報管理システムがダウンしたとき、リーダーの補佐を担うことができる 3. 情報管理システムについて、自部署の課題に気づき、管理者に提案ができる					
教育	行動目標 自己開発	<input type="checkbox"/> 自己の能力開発に向けた取り組みができ、手術看護の教育・指導ができる				
		1. 自己の能力開発（継続教育等）のためのプログラム等に目的をもって自主的に参加し、学習することができる 2. 手術看護に必要な知識・技術を効果的に学習するための人的・物的資源を活用できる 3. 学習した成果を実践に活用し、自己の課題を明確にできる 4. 実践した周術期看護をケースレポートにまとめ、文献を用いて考察することができる 5. 自己のキャリアプランを描くことができる				
	施設内教育	1. 管理者とともに自部署の看護職のニーズを把握し、勉強会・研修会の企画・運営・評価ができる 2. 自部署の勉強会・研修会に参加し、学びを看護スタッフとともに共有、フィードバックできる 3. 新入職員（新卒看護師・経験者）として到達目標の設定や効果的な教育方法を考え、部署の教育プログラム作成に参加できる 4. 新入職員の職場適応状況を把握し、効果的に研修が行えるよう実地指導者と新入職員への指導および精神的支援ができる 5. 新入職員の指導上の問題に対し、必要に応じて支援を求め問題解決ができる 6. 看護学生または研修生のレディネスを把握し、実習目的や目標を理解し、効果的な実習指導ができる 7. 学生・研修生に手術看護の専門性や果たす役割について説明できる				
	行動目標	<input type="checkbox"/> 支援のもと、手術看護に関連する疑問を科学的に検証ができる				
	研究	研究	1. 検索した文献をクリティークできる 2. 共同研究者として研究に参加し、研究計画書を作成できる 3. 支援のもと、研究計画書に記載した研究方法と手順で研究を遂行できる 4. 研究結果を部署の勉強会もしくは院内の研究発表会で発表できる			
		行動目標	<input type="checkbox"/> 倫理的問題に対し、解決に向けた行動ができる			



クリニカルラダー評価表

氏名： _____
 評価日： _____年 _____月 _____日
 評価者： 1) _____ 2) _____

レベルⅢ

カテゴリー	評価項目	自己評価	他者評価	看護管理者評価	最終評価
倫	看護倫理	1. 多職種との関係における倫理的問題に対し、根拠をもって自分の意見を主張し、解決に向けた行動ができる 2. 倫理的問題が生じたとき、その根拠を示し、問題解決に向けて協力を求めることができる (E-Ⅲ-①)			
	行動目標	<input type="checkbox"/> 患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる			
理	意思決定支援	1. 患者や周囲の人々の意向の違いが理解でき、他職種に代弁できる (D-Ⅲ-①) 2. 患者に必要なインフォームドコンセントを適切な方法で行うことができる			
	行動目標	<input type="checkbox"/> 看護専門職として自律して、手術チームと協働できる			
社会性	社会性	1. 服務規定を遵守した行動ができるように後輩や看護スタッフに指導ができる 2. 社会人・看護専門職として手術チームの一員として責任ある行動がとれるように後輩や看護スタッフに指導できる 3. 健康管理ができるように後輩やスタッフに指導できる			